

ステークホルダーとのコミュニケーション

日本ガイシグループは、連結事業運営に基づく資本効率と株主を重視する経営を推進し、企業価値向上による持続的な成長を目指しています。

基本的な考え方

日本ガイシは、株主・投資家の皆さまとの双方向のコミュニケーションにより、経営状況や運営方針の正確・迅速な説明に努めるとともに、企業価値の最大化に取り組んでいます。

株主・投資家の皆さまからの面談の申込みや株主総会での質問、日本ガイシのホームページを通じたお問い合わせについては、財務部及び総務部の各所管取締役の指揮のもと、両部門が必要に応じて経営企画室・コーポレートコミュニケーション部・法務部等と密接に連携しながら真摯に対応することで、建設的な対話の促進に努めています。

機関投資家の皆さまに向けた直接的な対話の機会も重視し、経営トップによる決算説明会(年2回)や海外IR(年2回)等の各種ミーティングを実施しています。

個人投資家の皆さまとの対話としては、日本経済新聞社が主催するIR投資フェアに出展しました。

これらの対話の結果を定期的に取り締役に報告することにより、マネジメントへのフィードバックを行い、経営効率の改善や経営の透明性の向上につなげています。

株主・投資家の皆さまとの対話は、企業価値及び資本効率の向上や持続的な成長の促進を目的として行うものとし、対話において未公表の重要事実を開示することは株主間の平等を害することに鑑み、原則として未公表の重要事実は開示しないものとしています。

企業情報の開示

経営の透明性を高め、日本ガイシグループに対する社会の信頼を得るために、経営情報、財務情報、商品・サービスに関する情報など、広く社会が求める情報を正確かつタイムリーに発信します。

行動ガイドライン

- 社会が必要とする情報は、法令や規則、社内ルールに従い、速やかに開示します。
- 正確な財務情報を開示するために、財務報告に係る内部統制の仕組みを確立し、適切に運用します。
- 商品・サービスに対するお客さまのお尋ねには誠意を尽くし、正確、かつ適切な内容・方法で応えます。

参考
URL

NGKグループ企業行動指針

<https://www.ngk.co.jp/info/governance/index.html>

開かれた株主総会

日本ガイシは、株主の皆さまにとって親しみやすく、開かれた株主総会の開催に努めています。毎年、総会会場には、会社紹介ブースと製品展示ブースを設け、説明担当者を配置するなど、当社の企業活動の紹介に努めています。

株主総会関連情報の拡充にも努めており、下記の取り組みを実施しています。

① 招集通知の早期発送	総会前日の22日前に発送
② ウェブサイト上での早期開示	2018年度より招集通知発送の4日前に開示
③ 東京証券取引所の議決権行使プラットフォーム [*] に参加	インターネットによる議決権の行使
④ 株主総会資料のWebサイトへの掲載	株主総会招集通知、議決権行使結果、決議通知、臨時報告書などをWebサイトで公開 サイトで公開 株主総会関連情報 https://www.ngk.co.jp/ir/meeting/index.html

※東京証券取引所議決権電子行使プラットフォーム：東京証券取引所が運用する電子投票システム。従来の書面での手続きに代えてインターネット経由で議決権行使することが可能となり、国内外の株主にとって利便性が向上する。

双方向のコミュニケーション

機関投資家の皆さまとの対話充実にも継続的に取り組み、国内・海外での定期的な説明会に加え、個別訪問や取材対応を行っています。また、経営トップによる国内外の機関投資家の訪問と個別面談を実施しています。

<2017年度の活動状況>

活動状況	内容
国内	経営トップによるアナリスト・機関投資家向け説明会を年2回開催。さらに個別訪問や訪問取材にも対応。
海外	経営トップによるアナリスト・機関投資家向け海外IRを年2回実施。
IR資料のホームページ掲載	決算情報、決算情報以外の適時開示資料、有価証券報告書、アニュアルレポート、株主総会資料などを掲載しています。

参考
URL

IR情報

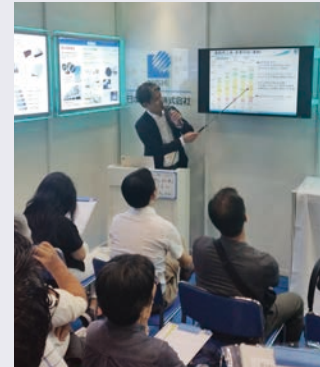
<http://www.ngk.co.jp/IR/index.html>

TOPIC

個人投資家向けIR・投資フェアに出展

2017年8月、東京ビッグサイトで開催された「日経IR・投資フェア」(主催：日本経済新聞社)に出展しました。

同IR・投資フェアには、100を超える企業団体が出展し、2日間で約17,000人の個人投資家が来場しました。当社ブースを訪れた約500人に対し、日本ガイシの事業内容や成長性を説明し、直接対話を通じて理解を深めていただくとともに、当社への関心を持っていただくことができました。



株主還元

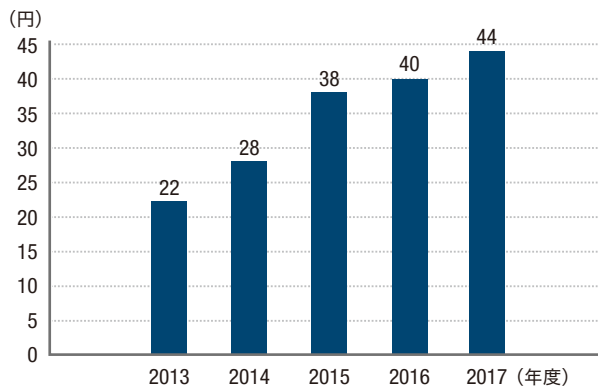
日本ガイシは、株主に対する利益還元が経営の最重要政策の一つと考えています。

基本方針として株主重視・ROE重視の経営を目指し、業績、財務体質、今後の事業展開などを総合的に勘案して連結配当性向30%程度を中期的な目処に利益の配分を行うこととしています。

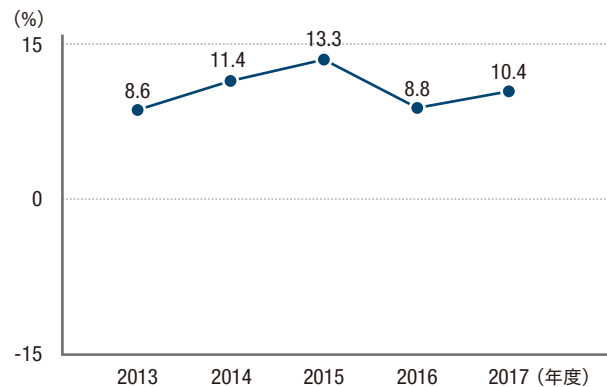
2017年度は1株当たり4円増配の44円の年間配当を実施し、連結配当性向は30.9%となりました。

今後とも、資本コストを上回る収益性確保と財務健全性を両立させるとともに、中長期の観点から積極的な株主還元に努めます。

配当金の推移



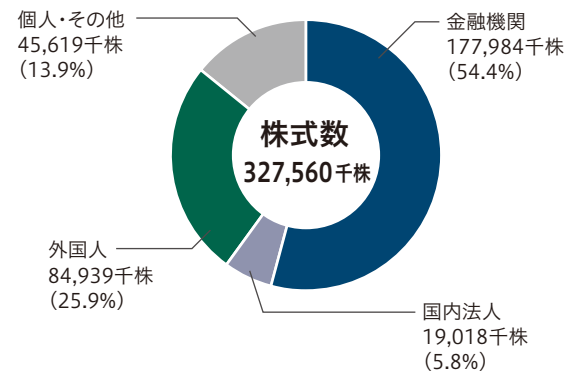
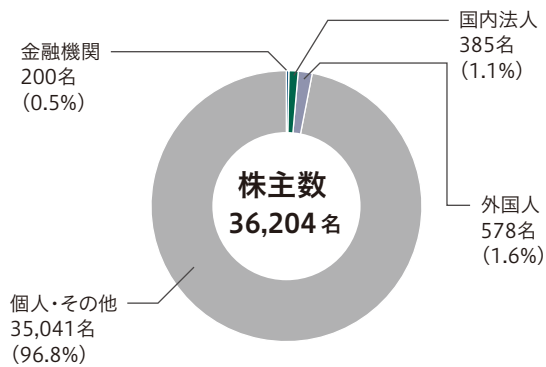
自己資本当期純利益率(ROE)



株主情報

<株式の情報> (2018年3月31日 現在)

会社が発行する株式の総数	735,030,000株
発行済み株式総数	327,560,196株
株主数	36,204名



<大株主の状況> (2018年3月31日 現在)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	36,350	11.29
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	24,261	7.54
第一生命保険株式会社	21,457	6.66
明治安田生命保険相互会社	18,695	5.81
株式会社三菱東京UFJ銀行	10,292	3.19
JP MORGAN CHASE BANK 380055	6,071	1.88
全国共済農業協同組合連合会	5,799	1.80
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5)	4,663	1.44
STATE STREET BANK WEST CLIENT – TREATY 505234	4,597	1.42
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社	4,387	1.36

※1 当社は、自己株式5,794千株を保有しておりますが、上記大株主からは除いております。

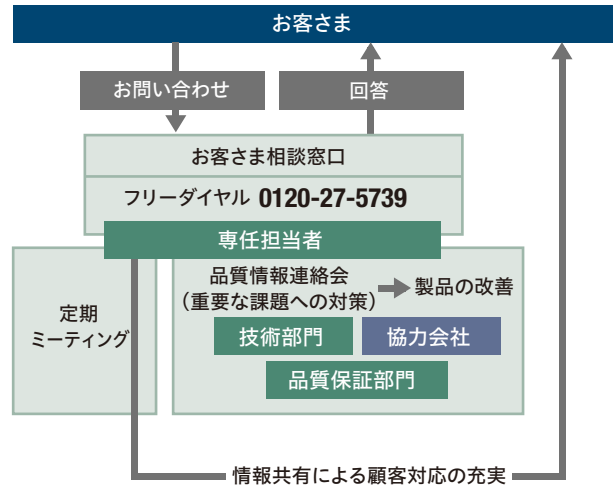
※2 上記持株比率は、発行済株式の総数から自己株式数(5,794,181株)を控除した株数を基準として算出し、小数点第3位以下を切り捨てとしております。

お客さまの声を経営に生かす体制

お客さま相談窓口の設置

日本ガイシは、産業用セラミックスのトップメーカーとして培ってきた技術を生かし、家庭用浄水器「C1(シー・ワン)」を製造・販売しており、お客さまの「声」に応える仕組みづくりを推進しています。

社内にC1専用の「お客さま相談窓口」を設置し、広くお客さまの声を製品やサービスに反映させる仕組みを構築しています。2017年度は、取り付け方法、商品性能、カタログ請求、修理や取り付け工事依頼など、電話やメールで約8,000件のご相談やお問い合わせをいただきました。



お客さまカード

C1を購入されたお客さまからお送りいただいた「お客さまカード」でもさまざまなお声にお応えしています。

「お客さまカード」の情報は、「お客さまリスト」に登録し、カートリッジ交換時期のご案内など、サービスの向上に役立てています。



従業員との対話

CSR活動の最新情報を発信するCSR-Web

日本ガイシの国内グループ全従業員にCSRの浸透を図るため、社内イントラネットに、CSRの取り組みを紹介する「CSR-Web」を設けています。全従業員に共有してほしいCSRトピックスや活動分野ごとの目標を掲載しているほか、随時更新して最新の情報を発信するとともに、CSR委員会の議事やトップと従業員が直接対話する「CSRトークライブ」の質疑を原則全て公開するなど、ここでしか見られない情報の拡充に努めています。

2016年度から月に1回、身近なテーマを4コマ漫画を使って紹介・解説する「コンプライアンス便り」の掲載を開始しました。

参考
ページ

コンプライアンス便り

P121

TOPIC

経営層の現場視察

「現場主義の徹底」という目標のもと、本社部門や事業部門、営業所、世界各地の生産拠点を日本ガイシ社長大島が直接訪問し、従業員と対話をする取り組みを行っています。

2017年12月にはNGKセラミックスサウスアフリカ(ACS)を、11日には電力事業本部のアブダビ事務所を訪れました。

ACSでは、各部門のマネージャーからの活動報告に、時折質問を交えながら熱心に耳を傾けていました。アブダビでは郊外のNAS電池の設置工事中の施設を訪問し、「厳しい環境の中だが、引き続きがんばってほしい」と社員を激励しました。



CSRトークライブ(CSR実践に向けた従業員との対話)

日本ガイシグループでは、従業員がCSRとその取り組みへの理解を深めるために、経営トップと直接対話するイベント「CSRトークライブ」を、2009年から全国の事業所で開催しています。

2017年度はグループ会社も含め6つの会場で合計10回開催し、約420人が参加しました。トークライブではまず、副社長とCSR委員長が「日本ガイシグループのCSRへの取り組み」をテーマに語り、CSRの重要性を訴えました。続いて環境経営統括部とCSR推進室から、「NGKレポート2017(社内版)」の内容を具体的な事例も交えて解説しました。

出席した従業員からは、環境やCSRの取り組み、ヘルプラインなどについて、活発な質問や意見が寄せられました。

<2017年度 CSRトークライブの開催日時と参加人数>

事業所・G社	日にち	人数
名古屋事業所	12月7日	46
	1月16日	42
	1月25日	50
NGKセラミックデバイス 山梨	12月12日	39
NGKエレクトロデバイス 山口	1月10日	99
	1月11日	
知多事業所	2月2日	50
NGKセラミックデバイス 小牧	2月6日	59
	(2回開催)	
小牧事業所	2月22日	34



CSRトークライブ
出席者数 延べ **3,758**人 (2009年～2017年)

「CSRトークライブ」参加者の質問と会社からの回答(抜粋)

● 環境

- Q** 環境5カ年計画について、具体的な取り組みを教えてください。
- A** 工場の革新ライン、省エネタイプの焼成炉、継続的な改善活動、断熱材の利用、リジェネ(排熱利用)など、生産性向上や歩留向上がそのまま環境改善の取り組みになります。

● 安全

- Q** AEDが設置されても使い方がわからない。もっと研修をするべきではないか。
- A** 全くそのとおりだと思います。担当部署に伝え、研修を実施したいです。

● コーポレート・ガバナンス

- Q** 国連グローバルコンパクトやSDGs、生物多様性はとても大事なことだと思うが、私たちが具体的に何をすれば良いかわからない。
- A** 企業行動指針を守ってください。現在の企業行動指針も人権など十分ではないので、今後見直します。生物多様性の活動ボランティアも募集しています。今後従業員の参加を促していく予定です。
- Q** ヘルプラインは誰が通報したかわかってしまうのではないかと？
- A** 通報者の保護が一番大事だと考えています。通報した人がそれによって不利益を被ってはいけません。ここに最大の注意を払っています。

● CSR

- Q** 日本ガイシグループのCSR活動は、同じ規模の他企業と比べて、人員やコストはどれくらいの位置にあるのか？
- A** CSRの取り組みにかかる人員やコストは、考え方や状況によって会社毎に違うので比較は難しいのですが、外部からの評価を参考にしながら改善しています。

調達パートナーとのコミュニケーション活動

取引先への業績説明会

日本ガイシは、主要な取引先を招いた業績説明会を、2017年6月に開催し、120社から210人に出席していただきました。

業績説明会では、まず資材部所管役員から今後の生産拡大への一層の支援と協力をお願いしました。続いて財務部から日本ガイシの業績について、資材部から設備投資への計画的な対応や安定的な調達、および、サプライチェーンでのCSR調達といった課題への取り組みについて説明しました。



取引先を招いた業績説明会

取引先ヘルプラインの継続的な運用

日本ガイシは、2008年に取引先ヘルプライン制度を設け、メールやFAX、電話を通じて相談を受け付け、早期解決につながる対応を図っています。

参考
URL

取引先ヘルプライン

<https://www.ngk.co.jp/info/procure/index.html>

国内外で取引先の個別訪問を実施

日本ガイシは、QCD(品質・コスト・納期)などを公正・公平に評価し、最適な取引先から調達するために、国内外で個別訪問を実施しています。2017年度は新規の取引先9社と既存の取引先102社の計111社を訪問しました。

訪問した取引先には、監査結果を説明した上で、評価の低い項目について改善を図るよう依頼しています。QCDの管理体制を向上すると同時に、取引先とコミュニケーションを取ることでより良い信頼関係の構築にもつながるよう努めています。